



動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
 〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)
 電話 { (鉄電) 千葉 2935・2939 番
 (公) 043(222)7207 番
 FAX 043(224)7209 番
 2000.10.2 No. 5202

— 第29回定期大会 一日目報告 —

三大闘争に全力で起とう!

— 〇四七名の解雇撤回闘争勝利! —
 「シニア制度」一検修・構内外注化阻止!
 J R 総連解体—組織拡大!

動労千葉第二九回定期大会が、新たな闘いの砦、DC会館において一〇月一日より二日間の日程で始まった。

今、定期大会は、一〇四七名の解雇撤回闘争の勝利! 「シニア制度」—業務の全面外注化反対! JR総連解体—組織拡大を軸とした、三大闘争に組織の総力をあげて決起していくことを最大の眼目として開催され、勝ちとられている。

二世紀という疾風怒濤の時代に通用する労働運動を!

大会は、布施副委員長の開会により始まり、議長団に、石川委員(千葉)、越川委員(銚子)を選出し、冒頭、本部・中野委

委員長あいさつ(要旨)

この一年間、運動的飛躍をかけて「新しい世代の動労千葉を」をスローガンに闘ってきた。DC会館新築に示される組織的・財政的力を内外に示すような闘いをしてきたといえる。

戦争と革命の時代である二一世紀に対応する労働者の団結・路線形成が必要だ。

今大会で確定すべき方針の一つは、一〇四七名の解雇撤回闘争について当該組合として全力で闘うということである。一〇四七名闘争も、日本労働運動史上例がないほど団結を維持して闘ってきた。これがいつ反乱を起すかわからないという危機感がこのような攻撃を生み出したことをはつきりみなければならぬ。今われわれは、まちが

員長が登壇し、二一世紀という疾風怒濤の時代に通用する労働運動を構築しようといふことを行なった(要旨別掲)

続いて、来賓あいさつとして、三里塚芝山連合空港反対同盟・北原事務局長、動労千葉顧問弁護団・葉山弁護士、動労水戸・国分委員長、中江船橋市議会議員、水野勝浦市議会議員、中村御宿町議、株式会社エスエル・山口社長、家族会・山田副会長よりあいさつを受けた。

一〇・八三里塚現地総決起集会

〈車の両輪としての真価を示そう〉
 とりわけ、反対同盟・北原事務局長の、「動労千葉とは車の両輪として、労働者には労働者

いなく有利なところに立っている。一三年間頑張り続けたことにより、JR総連のなかに大きな亀裂・動揺が走っているのがチャンスなのだ。

二つめには、シニア制度—検修・構内外注化攻撃との闘いである。年金法の改悪を逆手にとり定年延長せずに関連会社を紹介するだけというシニア制度は保守三部門すべてを外注化する攻撃とセットになっている。この資本にとつて都合のいい制度に文句もいわないのは労働組合ではない。これに対し定年を間近に控えた三名の仲間が地声に提訴し、闘うことを決意したことに感動し、敬意を表する。またこのことはJRが技術力のない会社になるということだ。反合・運転保安の闘いは動労千

の闘いがあり、農民には農民の闘いがあることを、共に尊重しながら闘い抜いてきた。戦争政策に踏み出す政治状況の中で、三里塚闘争を絶対勝つものとしなければ、体制そのものを変えざるものとならない」と、一〇・八現地総決起集会への結集が訴えられた。

一日目の主な質疑(要旨)

・JR東労組の、あまりにも異常な組合員への恫喝、しめつけは、その組織内部から激しい怨嗟の声を生み出している実態がある。組織拡大の絶好の好機が到来している。平成採用の若い仲間を獲得し、動労千葉が一〇〇〇名を越えるように奮闘していく。

葉の中軸的な路線だ。大闘争をたたかいたいとう。

三つめには、組織強化・拡大の闘いである。年内に決着をつけるべき大きな情勢が到来している。本大会を期して組織・財政・規約検討委員会を設置し、若い労働者の気持ちを受けとめて組織拡大を実現していくような討議を開始していく。

最後に、憲法を変えようという動きが本格化してきた。憲法調査会の設置、教育基本法の改悪など改憲が射程に入ったといえる。一大統一戦線をもって闘っていかねばならない。二一世紀に通用する新しい動労千葉を創りあげ、当面十・八三里塚、一一・五労働者集会五千名結集実現を通して日本の労働者の団結をつくりあげていこう。

・一三年にも及ぶ「塩づけ」攻撃に風穴が開いた。この成果をさらに拡大して、強制配転者の原職奪還の道をさらに押し広げていきたい。

・「標準数」という人員配置の状況の中で、様々な問題が発生している。検修競技会や運転競技会などというものが優先されるという実態がある。また、検査周期延伸など安全面に対する危機感を抱くものだ。不当労働行為そのものの「シニア制度」は絶対になくさなくてはならない。

・営業関係においても、「シニア制度」問題と同時に、要員縮小—日勤駅の業務委託があり、一徹程度の駅については委託していく攻撃がかかってきている。無人駅の増、委託化による運転保安面からの問題は重要な課題となってきた。

・運転関係のみでなく、営業関係や他職種においても、組織拡大のチャンスが到来していると考えられる。本大会を契機にその体制を作っていくことも重要な課題だ。

胸を熱くする争議団の決意!

大会一日目は、スケジュールの最後に本大会に結集した、動労千葉争議団のあいさつを受け、「民間で働くなど職場は違うが、動労千葉と共にある。DC会館竣工—新たな闘いの拠点に築かれた。解雇撤回まで闘いぬく」決意が明らかにされ、全体の胸を熱くさせた。

三大闘争の勝利に向け、闘う方針を確立しよう!